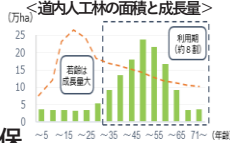


## 現状・課題

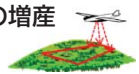
### ○ 北海道の森林資源

- ・利用期を迎えたカラマツやトドマツ等の人工林資源の増加  
-高齢化によるCO2吸収量の低下、伐採・植林量は増加の見込み
- ・天然林資源は回復傾向



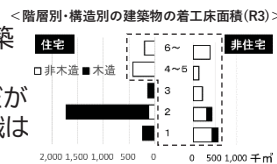
#### 課題

- ・森林の若返りによるCO2吸収量の確保
- ・コンテナ苗やクリーンラーチなどの優良種苗の増産
- ・広葉樹資源の的確な把握や育成、有効活用
- ・森林由来クレジットの創出・販売の促進



### ○ 道産木材の供給・利用

- ・国際情勢の変化により、輸入建築材の供給が不安定
- ・非住宅建築物の木造率は低位だが企業等の木材利用に対する意識は変化



#### 課題

- ・輸入材から道産建築材への転換
- ・幅広い分野での道産木材の需要拡大



### ○ 森林づくりの担い手

- ・林業従事者数は横ばいだが、高齢者の割合は依然高い
- ・造林分野の従事者数は減少傾向
- ・北森カレッジでの実践的な教育



#### 課題

- ・人材の確保・育成
- ・スマート林業の推進による施業の効率化



### ○ 防災・減災、国土強靱化に向けた取組

- ・記録的豪雨・地震等による山地災害発生リスクの上昇

#### 課題

- ・計画的な治山施設設置等による事前防災・減災対策の推進

### ○ 森林づくりへの関心の高まり

- ・環境保全に対する意識の高い企業等による森林づくり活動の広がり
- ・道民運動としての木育の定着

#### 課題

- ・企業など多様な主体との連携による木育の推進
- ・多様な木育活動をコーディネートする人材の育成



## 展開方向

「森林づくり基本計画」に基づき施策を展開

### 1. ゼロカーボン北海道の実現に向けた活力ある森林づくり

- ◎森林整備事業 (計画的な造林や間伐などの森林施策への支援や、木材搬出等に必要となる林道等林内路網の整備への支援)
- 拡◎豊かな森づくり推進事業費補助金 (森林所有者が計画的に実施する植林への支援)
- ◎森林整備等支援事業費\* (市町村体制強化支援、市町村森林整備支援)  
(市町村による森林整備を推進するための体制強化の取組への支援や森林情報などの各種システム整備等)
- ◎合板・製材・集成材生産性向上・品目転換促進対策等事業費 (コンテナ苗生産基盤施設整備等への支援)
- 新◎クリーンラーチ苗木早期増産対策事業費\* (クリーンラーチの苗木用種子の早期増産を図るための採種圃整備の促進)
- ◎クリーンラーチ幼苗安定確保対策事業費\* (クリーンラーチのさし木苗木の供給拡大を図るための新たな育苗技術の検証等)
- 新◎森林由来クレジット創出促進事業費\* (森林由来クレジットの創出に取り組み市町村等への支援や、道有林における天然林でのクレジット創出実証)

### 2. 広葉樹資源の育成・有効活用

- ◎広葉樹資源把握の技術開発事業費 (航空レーザー測量等を活用した資源把握、伐採可能算定手法の開発)
- ◎HOKKAIDO WOOD推進事業費\*  
・道産広葉樹利用促進事業費 (道産広葉樹製品の普及等)

### 3. 道産トドマツ建築材の安定供給体制の強化

- ◎合板・製材・集成材生産性向上・品目転換促進対策等事業費 (競争力強化に向けた加工流通施設整備等への支援)
- ◎林業・木材産業構造改革事業費 (高性能林業機械や木材加工流通施設等の整備への支援)
- ◎林業・木材産業生産基盤強化対策事業 (路網の整備・機能強化や間伐材生産等への支援)

### 4. 森林づくりを担う「人材」の確保

- ◎森林整備担い手対策推進費 (若年者の就業促進や安全衛生の確保、技術・技能の向上、就業環境の向上等への支援等)
- ◎北の森づくり専門学院管理費 (北森カレッジの管理・運営)

### 5. スマート林業による効率的な施業の推進

- 新◎スマート林業実装推進事業費\* (ICT等を活用した施業効率化の実証や人材育成、ICT機器等の導入支援、普及PR)
- ◎低コスト再造林対策事業費 (ドローンによる苗木運搬やコンテナ苗を活用した低密度植栽など、再造林への支援)

### 6. HOKKAIDO WOODブランドの浸透 などによる道産木材の需要拡大

- ◎ HOKKAIDO WOOD推進事業費\* (道産木材の利用拡大、HOKKAIDO WOODブランドによる需要創出等)  
・都市の木造化促進事業費 (中高層建築等の木造化に向けた研修) ・HW販売促進事業費 (展示会への出展や消費者等へのPR)
- 新◎道産建築材活用促進事業費\* (モデル的な木造民間施設の整備への支援)

### その他の主な施策

- 新◎林業・木材産業物価高騰緊急対策事業 (燃油消費量の削減に資する機械の導入等への支援)
- 新◎特用林産生産資材高騰対策事業費 (きのこ生産資材の導入への支援)
- ◎治山事業費 (山地災害の未然防や保安林機能の高度発揮に向けた荒廃山地の復旧や崩壊の予防、保安林の維持造成等)
- ◎道有林野事業費 (道有林の適切な整備・管理)

## 木育の推進

### 1. 木育マイスターや企業などによる木育活動の推進

- 拡◎ほっかいどう企業の森林づくり推進事業費\* (環境保全に関心のある企業等と森林所有者とのマッチング等を通じた企業の森林づくりの推進)
- ◎木育マイスター育成事業費\* (木育マイスター育成研修、企画力やコーディネート力の向上に向けたフォローアップ研修の実施)
- ◎「北海道のmokuiku(木育)」推進事業費 (教員への木育研修、こども園等との連携による木育教室の開催等)
- ◎北海道植樹の日・育樹の日推進事業費 (北海道・木育フェスタの開催を通じた「植樹の日・育樹の日」の普及PR)

# 重点取組① ゼロカーボン北海道の実現に向けた活力ある森林づくり

○ゼロカーボン北海道の実現に貢献するため、伐採後の着実な植林や間伐による活力ある森林づくりを進め、森林吸収量の確保を図る。

## 現状・課題

### ○森林施業の省力化・効率化

- ・人工林の高齢化による二酸化炭素吸収能力の低下などにより、森林吸収量は前年度から約1割減少
- ・カラマツ、トドマツを中心とした人工林が利用期を迎え、伐採面積の増加が見込まれる
- ・事業量の増加が予想される中、労働者数は横ばい

#### 【課題】

限られた労働力で伐採後の植林を着実に進めることが必要

### ○優良種苗の増産

- ・R5.3にコンテナ苗利用拡大推進方針を改定、利用・生産本数の目標を拡大
- ・二酸化炭素吸収能力や成長に優れたクリーンラーチの苗木の生産量は、需要量に対応できていない状況

#### 【課題】

コンテナ苗やクリーンラーチの更なる増産が必要

### ○森林整備の推進

- ・人工林の約3割は、手入れが行われていない状況
- ・国の制度改正により、森林由来クレジットの航空レーザを活用した大規模創出や天然林での創出が可能

#### 【課題】

市町村等と連携した間伐等の推進や、効率的な森林由来クレジットの創出支援による森林整備の促進が必要

## 令和5年度の取組

●: 予算事業、○: 非予算の取組 \* : 森林整備等支援事業費

### ◎省力・低コスト施業の推進

#### ●森林整備事業

- ・計画的な造林や間伐などの森林施業への支援や木材搬出等に必要となる林道等林内路網の整備への支援

#### ●豊かな森づくり推進事業費補助金【拡充】

- ・森林所有者が計画的に実施する植林への支援を行うとともに、造林の省力化を促進

#### ●低コスト再造林対策事業費

- ・コンテナ苗を活用した低密度植栽などの低コスト再造林の取組への支援

#### ●スマート林業実装推進事業費【新規・重点】

- ・造林や木材生産、流通などの効率化や作業の省力化を図るため、産学官金が連携したICT等の先進技術の実証や、人材育成、機器等の導入支援、普及PRを実施

### ◎優良種苗の安定供給

#### ●優良種苗確保事業費

- ・コンテナ苗生産施設や特定母樹採種園整備等への支援

#### ●合板・製材・集成材生産性向上・品目転換促進対策等事業費

(コンテナ苗生産基盤施設等整備)

- ・生産性向上等を図るためのコンテナ苗生産基盤施設整備等への支援

#### ●クリーンラーチ苗木早期増産対策事業費\*

- ・クリーンラーチ種子の早期増産を図るための採種園整備

#### ●クリーンラーチ幼苗安定確保対策事業費\*

- ・クリーンラーチ苗木の供給拡大に向けた新たな育苗技術の検証等

#### ●クリーンラーチ増産体制確立対策事業費\*

- ・民間採種園の保育管理技術の向上に向けた技術指導

### ◎適切な間伐等の推進

#### ●森林整備等支援事業費\* (市町村体制強化支援、市町村森林整備支援)

- ・市町村職員を対象とした森林環境譲与税等に係る説明会や現地技術指導の実施など
- ・市町村における業務の効率化を図るための森林情報など各種システムの運用・改修
- ・一般民有林の間伐施業地に至る道有林の路網整備

#### ○航空レーザを活用した森林由来クレジットの創出の取組

- ・道有林の一部における航空レーザ測量を活用した大規模森林由来クレジットの創出

#### ●森林由来クレジット創出促進事業費\*【重点・新規】

- ・森林由来クレジットの創出に取り組む市町村等への支援や、道有林における天然林でのクレジット創出実証



<コンテナ苗の植林機械>



<実演会の開催>



<コンテナ苗生産施設>



<クリーンラーチ採種園>



<航空レーザ測量>

## 重点取組② 広葉樹資源の育成・有効活用

○広葉樹資源の価値を高めるため、将来を見据えた広葉樹資源の育成や有効活用を推進する。

### 現状・課題

#### ○広葉樹資源の把握

- ・道内の森林は、エゾマツなどの針葉樹とミズナラなどの広葉樹からなる天然林が7割
- ・広葉樹資源の活用に必要な、全体資源量や樹種毎の生育場所等の把握が十分にできていない
- ・市町村においても森林・林業行政を担う人材不足等により、森林資源等の把握に苦慮

#### 【課題】

先進的な技術などによる資源把握に取り組むことが必要

#### ○広葉樹を活かした森林施業

- ・天然林資源は、昭和50年代以降、伐採量が大きく減少したものの、近年では資源が回復傾向

#### 【課題】

天然力を活用した施業に取り組むことが必要

#### ○広葉樹の供給と利用

- ・道内における広葉樹の利用は、パルプ用が約8割
- ・広葉樹材を用途別に仕分けて生産・販売している林業事業者は一部

#### 【課題】

広葉樹原木の安定供給や製品の販路拡大が必要

### 令和5年度取組

●: 予算事業、○: 非予算の取組 \* : 森林整備等支援事業費

#### ◎広葉樹資源の的確な把握

- 地域森林計画編成事業費
  - ・地域森林計画の策定に必要な森林資源情報などの整備や現地調査、検討会の開催
- 森林由来クレジット創出促進事業費\*【重点・新規】(再掲)
  - ・道有林における天然林を対象とした森林由来クレジット創出の実証
- 広葉樹資源把握の技術開発事業費\*
  - ・道有林における広葉樹資源の持続可能な利用に向けたICTの活用による広葉樹資源の把握技術の開発



<森林資源モニタリング調査>



<広葉樹伐木造材技術研修>



<活力ある天然林の育成>

#### ◎広葉樹を活かした森林施業

- 森林整備等支援事業費(市町村体制強化支援)\* (再掲)
  - ・市町村職員等を対象とした広葉樹大径材造材技術の研修会の開催
- 道有林における天然力を活用した森林づくり
  - ・広葉樹が侵入した針葉樹人工林の針広混交林化
  - ・多様な種類や高さの樹木からなる活力ある天然林の育成

#### ◎原木の安定供給と製品の利用拡大

- 道産広葉樹利用促進事業費\*
  - ・道産広葉樹の新たな需要の開拓や広葉樹原木の安定供給体制の構築
- HOKKAIDO WOOD販売促進事業費\*
  - ・HOKKAIDO WOODブランドを活用した道産木材製品の販路拡大
- 林業事業者マネジメント力強化支援事業費\*
  - ・林業事業者に向けた、需要の高い樹種や価格帯等に関する情報発信や、付加価値を高める採材や仕分けの手法等に関する研修会の開催
- 地域の木材需要を踏まえた原木の安定供給
  - ・道有林における道と素材生産業者や木材加工工場等との協定締結による原木の安定供給



<広葉樹付加価値向上検討会>



<広葉樹製品のPR>

## 重点取組③ 道産トドマツ建築材の安定供給体制の強化

○今後、一般民有林からの出材増加が見込まれるトドマツ人工林材を最大限に有効活用するため、品質や性能の確かな建築材としての供給力を強化する。

### 現状・課題

#### ○トドマツ建築材の生産

- ・国際情勢の変化により、輸入材の安定的な調達に不安があり、道産建築材の需要が高まっている
- ・製材工場では建築材加工ラインの増設など、増産に向けた動きがある一方、乾燥施設等を保有する工場は少ない
- ・道内で生産される建築用製材のうち、構造材としての使用に適した、含水率や強度が担保された製品は約6割

#### 【課題】

施設整備や工場間連携等による、品質・性能の確かな製品の供給が必要

#### ○原木の安定的な確保

- ・道内の高性能林業機械保有台数は全国一の971台、機械化が進展
- ・トドマツ人工林の高齢級化、大径化に伴い、出材量が増加する見込

#### 【課題】

木材生産の効率化や林業事業体の育成に取り組むことが必要

#### ○トドマツ資源の効率的な把握

- ・今後、出材量の増加が見込まれるが、計画的・安定的に原木供給を図るための資源情報が不足

#### 【課題】

ICT等を活用した精度の高い資源情報の把握が必要

### 令和5年度の取組

●: 予算事業、○: 非予算の取組 \* : 森林整備等支援事業費

#### ◎市場が求める製品の生産

- 道産建築材供給力強化対策事業
  - ・プレカット工場が求める品質や性能の確かな道産建築材の安定供給を図るため、複数の製材工場が連携した増産体制の検証を実施し、検証結果を全道に普及
- 合板・製材・集成材生産性向上・品目転換促進対策等事業費(木材加工流通施設等整備)
  - ・木材産業の体質強化に資する合板・製材・集成材工場等の整備及びストックヤード整備への支援
- 林業・木材産業構造改革事業費
  - ・木材加工流通施設や特用林産振興施設、木質バイオマス利用促進施設、木造公共施設の整備などへの支援



<道産建築材の生産>

#### ◎原木の安定供給

- 森林整備事業(再掲)
  - ・計画的な造林や間伐などの森林施業への支援や木材搬出等に必要となる林道等林内路網の整備への支援
- 合板・製材・集成材生産性向上・品目転換促進対策等事業費
  - ・原木を低コストかつ安定的に供給するための路網の整備や間伐、高性能林業機械等の導入への支援
- 林業・木材産業構造改革事業費(再掲)
  - ・原木の安定供給体制の整備及び林業経営体の育成に必要な高性能林業機械等の導入への支援
- 林業・木材産業生産基盤強化対策事業
  - ・路網の整備・機能強化や間伐材生産等への支援
- 森林組合経営強化対策事業費
  - ・森林組合の経営基盤等の強化に向けた研修や森林組合間の多様な連携等の取組への支援



<高性能林業機械>



<林内路網の整備>

#### ◎トドマツ資源の適確な把握

- 森林資源デジタル管理推進対策費
  - ・航空レーザ測量等を活用した高精度な森林情報の把握
- スマート林業実装推進事業費\*【重点・新規】(再掲)
  - ・木材生産、流通などの効率化や作業の省力化を図るため、産学官金が連携したICT等の先進技術の実証や、人材育成、機器等の導入支援、普及PRを実施

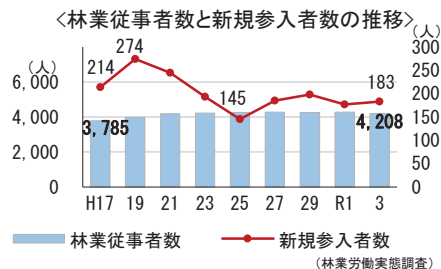
## 重点取組④ 森林づくりを担う「人材」の確保

○全道で人口減少と高齢化が進む中、道内外から広く、森林づくりを担う人材を確保するため、豊かな森林に恵まれた本道の優位性を発信するほか、安全で安心な労働環境の整備など林業事業体の経営基盤の強化を図る。

### 現状・課題

#### ○林業労働を取り巻く状況

- ・事業量の増加が見込まれる中、従事者数は横ばい
- ・新規参入者数はH19年をピークに減少し、近年は横ばい
- ・人口減少と高齢化により今後の労働者数の確保や、技術継承に懸念



- ・北森カレッジにおいて、オール北海道の運営体制により、人材を育成

#### 【課題】

道内外からの担い手の確保と、体系的な人材育成が必要

#### ○林業事業体の育成

- ・道内の林業事業体の約7割は雇用従事者10人未満と、中小・零細な経営
- ・他産業と比べ労働災害の発生率が高く、特に伐倒に起因した災害が多く発生

#### 【課題】

林業事業体の経営力の強化や労働安全対策が必要

### 令和5年度の取組

●: 予算事業、○: 非予算の取組 \* : 森林整備等支援事業費

#### ◎担い手の育成・確保

##### ●森林整備担い手対策推進費

- ・若年者の就業促進や安全衛生の確保、技術・技能向上に向けた研修の実施、就業環境の向上等への支援

##### ○地域ネットワークを活用した林業担い手対策の推進

- ・教育機関や林業事業体などが参画する地域ネットワークを活用し、新規就業者の確保や通年雇用化の促進、就業環境の改善などの取組を推進

##### ●若手林業従事者定着促進事業費\*

- ・「森の魅力発信し隊」への加入促進を通じた若手林業従事者等のネットワークの強化と仕事に対するモチベーションの向上を図るワークショップの開催

##### ●北の森づくり専門学院管理費

- ・北森カレッジの運営による地域に根ざした人材の育成や道内外からの生徒の確保、道内の林業・木材産業関連企業等への就職の支援

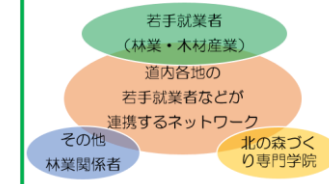
##### ●緑の青年就業準備給付金事業費\*(一部)

- ・林業への就業前の青年に対する給付金の支給



<林業機械研修>

【活動内容】  
○仕事や山村地域のライフスタイルに関する情報交換。  
○自然の中での仕事や暮らしに関する魅力発信 など。



<森の魅力発信し隊>



<北森カレッジ校舎>



<シミュレーターによる実習 (北森カレッジ)>



<インターンシップ (北森カレッジ)>



<合同企業説明会 (北森カレッジ)>

#### ◎林業事業体の経営力強化

##### ●森林組合経営強化対策事業費(再掲)

- ・森林組合の経営基盤等の強化に向けた研修や森林組合間の多様な連携等の取組への支援

##### ●林業事業体のマネジメント力強化支援事業費\*(再掲)

- ・経営力向上のためのセミナーや森林整備・労働安全に関する研修会の開催



<林業経営力向上セミナー>

## 重点取組⑤ スマート林業による効率的な施業の推進

○労働人口の減少や木材生産量の増加などに対応するため、ICT等の先進技術を幅広く活用した「北海道らしいスマート林業」を推進し、効率的な施業の定着を図る。

### 現状・課題

#### ○林業を取り巻く状況

- ・今後、伐採や再植林の増加が見込まれる一方、林業労働力の不足が懸念

#### 【課題】

- ・資源把握から造林、素材生産に至るまで、新たな技術を活用して効率的に作業を行うスマート林業を推進することが必要

- ・技術を活用できる人材の育成が必要

#### ○効率的な素材生産・流通

- ・ハーベスタの導入が進む中、木材の生産や流通において、丸太検知・受入の作業は人力が主体

#### 【課題】

高性能林業機械のICT機能やデジタルデータを活用した生産・流通の効率化が必要

#### ○森林資源の的確な把握

- ・ICTを活用した森林施業に必要な資源情報が不足

#### 【課題】

精度の高い資源情報を簡易かつ安価な方法で把握することが必要

#### ○造林・保育作業の省力化

- ・植え付けや下草刈り等の造林作業は人力が主体で省力化が進んでいない

#### 【課題】

植栽木の位置情報の活用やコンテナ苗の利用拡大等による造林・保育作業の省力化・効率化が必要

### 令和5年度の取組

#### ◎伐採作業及び造林・保育作業等の効率化

##### ●スマート林業実装推進事業費<sup>\*(一部)</sup>【重点・新規】(再掲)

- ・産学官金が連携した協議会による実証

道、市町村、林業・木材産業事業者、大学、金融機関等による協議会において、デジタルデータによる木材生産管理や資源情報の高度化、造林作業の機械化など森林施業や木材の生産・流通の効率化を図る実証を実施(デジタル林業戦略拠点構築推進事業(国)を活用)

- ・スマート林業技術を活用できる人材を育成する研修を実施
- ・スマート林業の定着に向けた機器等の導入への支援
- ・実演会などによるスマート林業技術の普及PR

##### ●森林資源デジタル管理推進対策費(再掲)

- ・航空レーザ測量等を活用した高精度の森林情報の把握

##### ●広葉樹資源把握の技術開発事業費<sup>\*</sup>(再掲)

- ・道有林におけるICTを活用した広葉樹資源の把握技術の開発

##### ○コンテナ苗の利用拡大

- ・「北海道コンテナ苗利用拡大推進方針」に基づき、関係者が連携して、生産体制の整備やコンテナ苗の優位性等の幅広い普及を進め、利用の一層の拡大を図る

##### ●合板・製材・集成材生産性向上・品目転換促進対策等事業費

- (コンテナ苗生産基盤施設等整備)(再掲)
- ・生産性向上等を図るためのコンテナ苗生産基盤施設整備等への支援

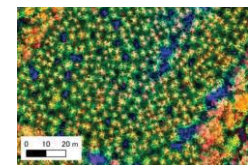
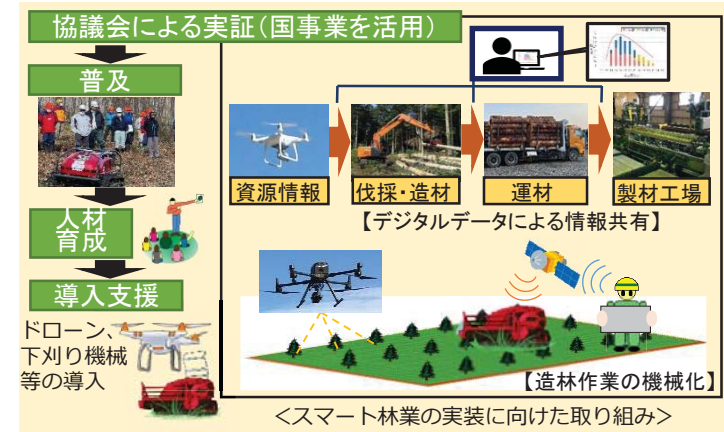
##### ●森林整備事業(再掲)

- ・計画的な造林や間伐などの森林施業への支援や木材搬出等に必要となる林道等林内路網の整備への支援

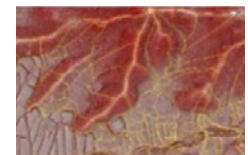
##### ●低コスト再造林対策事業費(再掲)

- ・ドローンによる苗木運搬やコンテナ苗を活用した低密度植栽など、再造林への支援

●: 予算事業、○: 非予算の取組 \* : 森林整備等支援事業費



<レーザ林相図>



<微地形図>



<ドローンによる苗木運搬>

# 重点取組⑥ HOKKAIDO WOODブランドの浸透などによる道産木材の需要拡大

○道民の暮らしに道産木材製品が定着し、道産木材の需要拡大が図られるよう、『HOKKAIDO WOOD』ブランドを活用し、公共施設や住宅、民間施設等における道産木材の利用促進に取り組む。

## 現状・課題

### ○道産木材を取り巻く状況

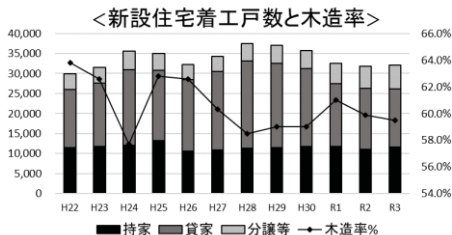
- ・輸入材から道産木材への転換が進む中、製材・合板等の木材利用量は横ばい
- ・「HOKKAIDO WOOD」ブランドを活用した道外、海外でのPRを実施
- ・ロゴマーク使用企業は、建築・木材関係を中心に増加(R5.3月時点245企業)

### 【課題】

HOKKAIDO WOODブランドの浸透により、道産木材の販路を拡大することが必要

### ○建築物の木造化

- ・住宅の木造率は高いが、道産木材の使用比率は約2割と低位



- ・非住宅建築物の木造率は、約2割と低位
- ・木造・設計技術者の不足などを背景に、公共建築物の木造率は約2割と低位

### 【課題】

住宅での道産建築材の利用や、非住宅建築物での木造・木質化を一層促進することが必要

## 令和5年度の取組

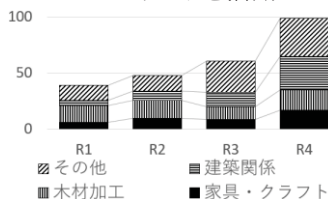
●: 予算事業、○: 非予算の取組 \* : 森林整備等支援事業費



### ◎「HOKKAIDO WOOD」の普及・PR

#### ●HOKKAIDO WOOD販売促進事業費\*(再掲)

- ・北海道産の木材製品を取り扱っているHOKKAIDO WOODメンバー間の連携促進や、HOKKAIDO WOODブランドを活用したプロモーション活動の展開及び道外・海外における販路拡大



<東京での展示会>



<台湾での展示会>



<身近な製品での活用>

### ◎住宅や建築物等における道産木材の利用促進

#### ●都市の木造化促進事業費\*

- ・中高層・非住宅建築等におけるCLT等の利用拡大やHOKKAIDO WOOD BUILDING登録制度の活用による企業等と連携した木造・木質化の推進、木造設計者等の育成

#### ●林業・木材産業構造改革事業費(再掲)

- ・地域材を利用した波及効果の高い木造公共施設等の整備への支援

#### ○住宅分野における道産木材の利用促進

- ・住宅建築を手がける工務店への「北の木の家」制度の普及や建築材の安定供給対策など、道産木材の利用促進

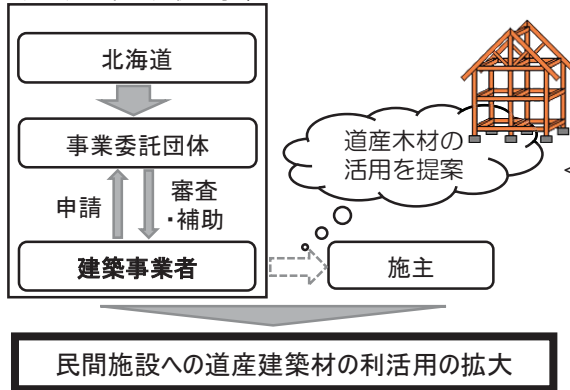
#### ●道産建築材活用促進事業費\*【重点・新規】

- ・民間施設の木造化への支援



<普及啓発冊子>

#### <道産建築材活用促進事業>



<道産木材を活用した建築物の登録証交付>



北の木の家



<技術者研修会>

<住宅分野における利用促進>

## 重点取組⑦ 木育マスターや企業などによる木育活動の推進

○多様化する木育活動をコーディネートする木育マスターの育成やネットワーク化を全道各地域で推進するとともに、環境保全に関心のある企業等に対して木育活動への参加を積極的に働きかける。

### 現状・課題

#### ○木育マスターの育成

- ・木育マスターに対する関心の高まり  
〈育成研修受講希望者 R2:45名→R4:71名〉
- ・CSRの一環として企業が取り入れる木育活動が多様化

#### 【課題】

- ・多様化する木育活動をコーディネートする木育マスターの育成が必要  
〈木育マスター育成数:R5.3現在 323名〉

#### ○企業等と連携した木育の推進

- ・環境保全への関心の高まりから、森林づくりを希望する企業が増加  
〈協定締結数:R2:3件→R4:8件〉
- ・企業等と木育マスターが連携した木育活動の広がり  
〈木育イベント回数:H29:64回→R4見込み:78回〉
- ・「北海道植樹の日・育樹の日条例」の制定(H30.12)や「第44回全国育樹祭」(R3.10)の本道開催による植樹や育樹活動への気運の高まり

#### 【課題】

- ・「2050年のゼロカーボン北海道」の実現に向けた森林吸収源対策の推進にあたり、企業等による森林づくりの促進が必要
- ・企業等のニーズを踏まえた木育活動の企画や参加への働きかけが必要

### 令和5年度の取組

●: 予算事業、○: 非予算の取組 \* : 森林整備等支援事業費

#### ◎多様なニーズに対応できる木育マスターの育成

- 木育マスター育成事業費\*
  - ・木育マスター育成研修、企画力やコーディネート力の向上に向けたフォローアップ研修の実施



〈木育マスター育成研修〉

#### ◎木育活動への企業等の参加の促進

- 北海道植樹の日・育樹の日推進事業費(北海道・木育フェスタ開催費)
  - ・北海道・木育フェスタ等の開催による「北海道植樹の日・育樹の日」等の普及
- ほっかいどう企業の森林づくり推進事業費\*【重点・拡充】
  - ・環境保全に関心のある企業等と森林所有者とのマッチング等を通じた企業の森林づくりの推進
- 道民との協働の森づくり推進事業費
  - ・散策路の補修、季節情報誌などによる木育の情報発信や木育教室等の開催
- 「北海道のmokuiku(木育)」推進事業費(再掲)
  - ・認定こども園や児童館、大学等との連携による木育教室や普及啓発イベントの開催、木育マスターへの活動支援
- 森林・山村多面的機能発揮対策推進費
  - ・民間団体等が行う森林の保全活動や利活用などの取組への支援
- 道立の森維持運営費
  - ・道民の森の活用方針に基づく森に学ぶ機能の強化、道民の森の各施設の長寿命化対策等の推進
- 地域連携促進事業費\*
  - ・木育マスターや市町村、企業等による広域的な連携体制の構築への支援



〈北海道・木育フェスタ〉  
(北海道植樹祭)



〈企業による森林づくり〉



〈木育教室の開催〉



〈木育マスターの活動支援〉



## <主な取組> 森林吸収源対策の推進

○ゼロカーボン北海道の実現に積極的に貢献できるよう、森林吸収源対策推進計画に基づき、森林吸収量の確保に向けた対策を推進する。

### 現状・課題

#### ○森林吸収量と森林整備

- ・森林吸収量は、人工林の高齢化による二酸化炭素吸収能力の低下などにより、前年度から約1割減少
- ・事業量の増加が見込まれる中、労働者数は横ばい

#### 【課題】

- ・計画的な伐採と伐採後の着実な植林を進め、森林の若返りを図ることが必要
- ・限られた労働力で森林整備を推進していくことが必要

#### ○木材利用

- ・近年の製材・合板等の木材利用量は横ばいで推移
- ・非住宅建築物の木造率は、約2割と低位

#### 【課題】

- ・森林が吸収した二酸化炭素を長期間固定するため、建築物等での道産木材の利用を一層促進することが必要

#### ○道民参加の森林づくり

- ・企業の森林づくりへの関心が高まっている

#### 【課題】

- ・環境保全に関心がある企業に対し、森林づくり活動への参加の働きかけが必要

### 令和5年度の取組

#### ◎活力ある森林づくり

●：予算事業、○：非予算の取組 \*：森林整備等支援事業費

##### ●森林整備事業(再掲)

- ・計画的な造林や間伐などの森林施業への支援や木材搬出等に必要となる林道等林内路網の整備への支援

##### ●豊かな森づくり推進事業費補助金【拡充】(再掲)

- ・森林所有者が計画的に実施する植林への支援を行うとともに、造林の省力化を促進

##### ●クリーンラーチ幼苗安定確保対策事業費\* (再掲)

- ・クリーンラーチ苗木の供給拡大に向けた新たな育苗技術の検証等

##### ●道有林野事業費

- ・道有林の適切な整備・管理

##### ●森林由来クレジット創出促進事業費\*【重点・新規】(再掲)

- ・森林由来クレジットの創出に取り組む市町村等への支援や、道有林における天然林を対象としたクレジット創出の実証

##### ●スマート林業実装推進事業費【新規・重点】(再掲)

- ・造林や木材生産、流通などの効率化や作業の省力化を図るため、産学官金が連携したICT等の先進技術の実証や、人材育成、機器等の導入支援、普及PRを実施



<地拵え、下草刈り作業機械>



<コンテナ苗の植林機械>



<ICTハーベスタ>

#### ◎道産木材の利用促進

##### ●HOKKAIDO WOOD推進事業費\* (再掲)

- ・道産木材製品の利用拡大、HOKKAIDO WOODブランドの活用による需要創出、道産木材を活用したモデル的な民間施設の整備への支援など

##### ●林業・木材産業構造改革事業費(再掲)

- ・木材加工流通施設や特用林産振興施設、木質バイオマス利用促進施設、木造公共施設の整備への支援

##### ●木質バイオマスゼロカーボン推進事業費

- ・木質バイオマスボイラーの導入支援や研修等の実施



<内外装を木質化した店舗>

#### ◎企業等と連携した森林づくり

##### ●ほっかいどう企業の森林づくり推進事業費\*【重点・拡充】(再掲)

- ・環境保全に関心がある企業等と森林所有者とのマッチング等を通じた企業の森林づくりの推進

##### ●北海道植樹の日・育樹の日推進事業費(北海道・木育フェスタ開催費) (再掲)

- ・北海道・木育フェスタの開催による「北海道植樹の日・育樹の日」の普及



<ほっかいどう企業の森林づくり>

# 〈主な取組〉 森林環境譲与税を活用した道の取組 ～市町村による森林整備等の取組への支援～

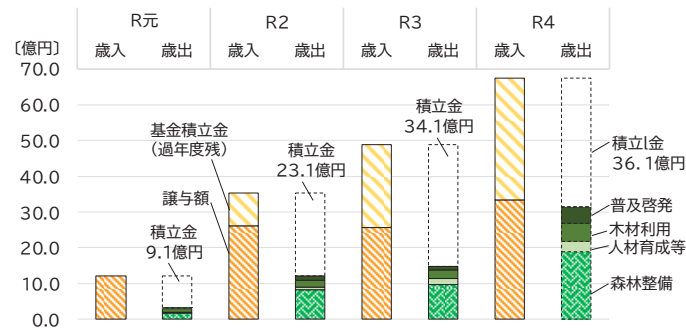
○森林による二酸化炭素吸収への期待の高まりや、令和6年度からの森林環境税の徴収及び森林環境譲与税の増額を見据え、市町村の譲与税を活用した間伐等の森林整備や地域材利用などの取組が円滑に進むよう、積極的に支援する。

## 現状・課題

### ○森林環境譲与税の現状等

- ・平成31年に森林環境税・森林環境譲与税が創設
- ・林業の担当職員が少ない市町村が多い
- ・令和4年に14振興局全てに、「森林吸収源対策推進地域協議会」を設置し、市町村をきめ細かく支援
- ・令和6年度から森林環境税が徴収開始されるとともに、森林環境譲与税は、増額する見込み

森林環境譲与税の活用状況



- ・令和4年度末までに約97.4億円の譲与税が市町村に譲与され、前年度執行残を含めた当年度の基金積立額は減少傾向にあるが、積立額としては令和3年度に約34.1億円に増加
- ・譲与税の執行額は着実に増加し、森林整備では、R4はR元の約11倍となる18.8億円、木材利用では、R4はR元の約4.5倍の約5.0億円

### 【課題】

- 基金積立額が多い市町村への活用の働きかけや事業提案を強化するとともに、市町村のニーズに応じた一層の支援が必要
- 市町村の取組を支援するため、ICT等を活用した森林施業の効率化・省力化や、建築材など付加価値の高い製品の利用拡大など、森林整備事業量の増加や、地域材利用の促進につながる取組が必要

## 令和5年度の取組

●: 予算事業、○: 非予算の取組

### ◎体制強化

市町村の取組：地域に応じた森林政策の企画・推進 など

#### ●総合的な支援体制の構築

- ・市町村向け相談窓口の設置、研修会の開催(クラウドシステム操作等)など

#### ○市町村との情報共有の強化

- ・各(総合)振興局に設置した地域協議会などを通じた先進的な取組事例の提供など



### ◎森林整備の促進

市町村の取組：市町村単独の森林整備事業の実施 など

#### ●森林整備市町村支援システム管理事業費

- ・森林GISや路網、設計積算、事業体情報などの情報共有システムの運用など

#### ●スマート林業実装推進事業【重点・新規】(再掲)

- ・造林や木材生産、流通などの効率化や作業の省力化を図るため、産学官金が連携したICT等の先進技術の実証や、人材育成、機器等の導入支援、普及PRを実施

#### ●森林由来クレジット創出促進事業費【重点・新規】(再掲)

- ・森林由来クレジットの創出に取り組む市町村等への支援や、道有林における天然林を対象としたクレジット創出の実証

### ◎地域材利用の促進

市町村の取組：地域材を活用した木造公共施設等の建設 など

#### ●HOKKAIDO WOOD推進事業費(再掲)

- ・木材利用に関する相談窓口の設置や技術者研修の実施など

#### ●道産建築材活用促進事業費【重点・新規】(再掲)

- ・地域のモデルとなる民間施設の木造化への支援



### ◎人材の育成・確保

市町村の取組：地域における新規就業者の確保 など

#### ●「北の森づくり専門学院」の運営(再掲)

- ・将来的に企業の中核を担う地域に根差した人材の育成
- ・フィンランドの林業専門学校と連携した教育プログラムの実践



### ◎森林整備等の理解促進

市町村の取組：森林づくりフィールドの環境整備 など

#### ●ほっかいどう企業の森林づくり推進事業費【重点・拡充】(再掲)

- ・環境保全に関心がある企業等と森林所有者とのマッチング等を通じた企業の森林づくりの推進



# ＜主な取組＞ 北海道胆振東部地震による被災森林の再生に向けた取組

○被災森林の再生や林業・木材産業の復興に向けて、国や市町村等の関係機関と連携し、森林の造成や作業道等の整備、治山施設の設置等を計画的に進める。

## 現状・課題

### ○被災森林の復旧状況

- ・平成30年9月に北海道胆振東部地震が発生
- ・厚真町、安平町、むかわ町で約4,900haの森林が被災



＜被害状況＞

＜森林被害の内訳＞

市町村名	被害面積(ha)		
	崩壊地	堆積地	合計
安平町	528	23	551
厚真町	3,236	579	3,815
むかわ町	529	3	532
合計	4,293	605	4,898

### ○胆振東部地震森林再生実施計画に基づく復旧

- ・被災森林の再生を図るため、「胆振東部地震森林再生実施計画」(R4.3)を策定
- ・崩壊箇所ごとの森林復旧の手法や路網整備箇所などを明らかにし、森林再生を本格化

#### ・計画内容

-森林造成: 1,219ha

(植林1,116ha、緑化 103ha)

R4～R8まで集中的に実施

-林内路網整備: 100km

(林業専用道30km、森林作業道70km)

森林造成に先行し、R4～R9まで実施

#### 【課題】

- ・実施計画に基づく取組を着実に進め、一日も早い森林の再生を図り、地域の復興につなげることが必要
- ・崩壊地や保全対象の状況を踏まえ、計画的な治山対策を進めることが必要

## 令和5年度の取組

### ◎森林の造成

●: 予算事業、○: 非予算の取組  
※実施計画は単位未満を四捨五入しているため、合計値が一致しない場合がある

#### ●胆振東部地震被災森林再生加速化事業

- ・植栽の支障となる被害木の除去・搬出及び被害木の整理に必要な作業道の整備への支援

#### ●森林整備事業(造林事業)(再掲)

- ・被害木の整理や植林等への支援
- ・道有林が率先して復旧を実施し、地域の森林所有者等に復旧方法を普及

#### ●豊かな森づくり推進事業費補助金【拡充】(再掲)

- ・森林所有者が計画的に実施する植林への支援を行うとともに、造林の省力化を促進

森林造成の実施計画における年度別事業量 (単位: ha)

区分	R4	(R4実績)	R5	R6	R7	R8	小計	R9～	合計
被害木整理	115	(103)	115	102	105	74	511	82	593
植林	142	(136)	125	141	123	126	657	459	1,116
緑化等	8	(12)	42	17	14	11	92	11	103
植林・緑化計	150	(148)	167	158	137	137	749	470	1,219
自然回復					3,548				



＜被害木の整理＞



＜被災森林の造成＞

### ◎作業道等の整備

#### ●合板・製材・集成材生産性向上・品目転換促進対策等事業費

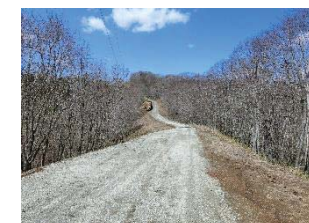
- (路網整備)(再掲)
- ・林業専用道(規格相当)等の整備および支援

#### ●森林整備事業(再掲)

- ・森林作業道の開設等への支援

林内路網整備の実施計画における年度別事業量 (単位: km)

区分	R4	(R4実績)	R5	R6	R7	R8	R9	合計
林業専用道	9	9	8	5	3	2	2	30
森林作業道	20	21	20	21	5	3	2	70
合計	29	30	28	26	8	5	4	100



＜作業道等の整備＞



＜崩壊林地の復旧＞

### ◎治山施設の設置等

#### ●治山事業費(再掲)

- ・治山ダムの設置や山腹工事等の治山対策を実施
- ・軽量化資材の活用など、施工の省力化を通じた効率的な復旧対策を実施

## <主な取組> 防災・減災、国土強靱化に向けた取組

○近年、山地災害が激甚化・頻発化していることを踏まえ、防災・減災、国土強靱化に向け、山地災害危険地区等における治山対策や森林整備を計画的に実施する。

### 現状・課題

#### ○激甚化・頻発化する山地災害等への対応

・気候変動の影響等により、山地災害が甚大・頻発化

#### 【課題】

- ・荒廃山地の早期復旧や防災・減災、国土強靱化に向けた計画的かつ効率的な治山対策や森林整備が必要
- ・洪水や流木被害など、流域全体での総合的な対策が必要

#### ○巨大地震による津波被害軽減に向けた対応

・今後想定される巨大地震により甚大な津波被害が危惧される

#### 【課題】

- ・津波減衰効果の高い海岸防災林の計画的な整備が必要

#### ○老朽化する治山・林道施設の長寿命化

・これまで整備してきた治山・林道施設が老朽化し、機能が低下

#### 【課題】

- ・予防保全型維持管理の考え方による点検診断、補修等、計画的な長寿命化対策が必要

### 令和5年度の取組

#### ◎山地災害危険地区等における取組

##### ●治山事業費

- ・治山ダムの整備や山腹工事による荒廃山地の復旧や崩壊の予防など
- ・流木被害防止のための流木捕捉治山ダムの整備など

##### ●森林整備事業(再掲)

- ・森林の有する多面的機能の維持・増進に向けた造林や間伐等の森林施策への支援や木材搬出等に必要となる林道等の整備への支援

##### ○流域全体の関係者と協働した「流域治水」の取組

- ・森林の有する土砂流出防止機能等の適切な発揮に向けた治山対策及び森林整備の実施（流域治水プロジェクト）

##### ○山地災害危険箇所の周知などを通じた防災・減災対策の推進

- ・山地災害危険地区のHP公開による、防災意識の高揚など地域防災力の向上
- ・治山施設位置情報の公開や山地災害危険地区の土地所有形態の事前把握など、山地災害発生時の迅速な対応に向けた取組

##### ○森林土木事業におけるICT等の活用

- ・治山事業の施工性の向上等に向けたICT機械施工やUAV実播などの試行、検証と取組方針の策定
- ・林道事業における、調査・設計、施工から維持管理までの一連の生産性向上を図るため、ICTの活用を目指した取組方針を策定

#### ◎海岸防災林の整備

##### ●治山事業費(再掲)

- ・津波減勢工を併用した津波エネルギーの減衰効果が高い海岸防災林の造成
- ・天然現象等により林況が悪化している既存林帯の改良や保育の実施

#### ◎インフラ長寿命化に向けた取組

##### ●治山事業費(再掲)

- ・治山施設個別施設計画に基づく計画的な点検・診断、補修等の実施

##### ●林道施設

- ・道有林林道橋梁長寿命化計画に基づく計画的な点検・診断、架け替え、補修等の実施

●: 予算事業、○: 非予算の取組



<治山ダムの整備>



<UAVによる資材運搬>



<海岸防災林>



<林道橋梁の老朽化状況>